

2015年10月20日

報道機関関係者 各位

## オーストラリアの大学から37名被災地訪問 -震災からの復興を考える-

のお知らせ

報道関係者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より本学院の教育へご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

オーストラリア政府協力のもと、今月29日（木）・30日（金）の2日間、オーストラリア（ビクトリア州）の2つの大学（ラ・トローブ大学、ロイヤルメルボルン工科大学）で「自然災害からの復興」等を学ぶ学生35人が来仙し、宮城県内の被災地（仙台市蒲生、名取市閑上、仮設住宅、岩沼市千年希望の丘等）を訪れるほか、東日本大震災で被災した学生や大学職員の経験談を聞く交流会などの情報交換を行います。※【日程表：別紙①】

オーストラリア（ビクトリア州）は、2009年の発生した史上最悪の山火事（Black Saturdayと呼ばれる）を経験したことをきっかけに、「防災」や「復興」についての関心も高く、今回来仙する学生も、津波被害の傷跡がのこる被災地を実際に視察することで、将来に向けた町作り、都市計画にアイデアを繋いでいこうとしています。

つきましてはお忙しい時期とは存じますが、世界においても「東日本大震災」は記憶に新しく、今回の様に海外からも学生や研究者が訪れている事を取材・報道いただき、まだまだ「復興」が済んでいない現状、ひいては、記憶の風化阻止の一助とも是非取材頂き、報道下さいますよう宜しくお願いします。

### 記

- 実施概要
- 日時：2015年10月29日（木）～30日（金）
  - 場所：各被災地（仙台、名取、岩沼）、尚絅学院大学キャンパス
  - 目的：オーストラリア、ビクトリア州は、2009年に史上最悪の自然火災（Black Saturdayとして知られる）が発生した他、洪水の被害等を受けてきました。それらの災害の経験を基に、東日本大震災の被災地を見学し被災経験を持つ学生と交流し、その経験を共有しながら将来に向けた防災、復興、町づくりや都市計画へとアイデアを繋げていくこと。
  - その他：ラ・トローブ大学準教授トレバー・バッジ氏は、スリランカの津波被害の救済で目覚ましい活躍をし、オーストラリア政府から表彰されています。また、ロイヤルメルボルン工科大学準教授マルコ・アマティ氏は、筑波大学で博士号を取得し、都市における緑化政策関連の研究に携わっています。

以上

尚絅学院大学 連携交流課  
担当：佐々木真理  
TEL：022-381-3315  
Email：[renkei@shokei.ac.jp](mailto:renkei@shokei.ac.jp)

別紙資料①：2015年10月29-30日 オーストラリア訪問団日程

La Trobe University & Royal Melbourne Institute of Technology (RMIT)

Visitors: 教員2名、博士課程学生1名、学生34名

<p>10/29 (木)</p>	<p>被災地見学ツアー 9:00 出発 午前：蒲生、閑上、日和山、慰霊碑、美田園第1仮設住宅  午後：玉浦復興住宅、千年希望の丘、メガソーラー発電所</p>	
<p>10/30 (金)</p>	<p>10:30~12:00 【一般公開】合同授業 参加者：オーストラリア訪問団37名、本学学生・教職員、 一般市民 ■本学学生による被災経験のプレゼンテーション(20分) ■本学教員による復興に関するプレゼンテーション(30分) ■ラ・トロブ大学およびロイヤルメルボルン工科大学の 教員によるスピーチ(各15分、計30分) 【使用言語：英語】  13:30~15:00 交流会 職員による被災経験談 Q&amp;A フリートーク</p>	<p>場所： 尚綱学院大学 5号館 5G 講義室  場所： 尚綱学院大学 4号館 4-113 講義室</p>